

日本古典籍研究国際コンソーシアム
「日本国内外のくずし字教育」分科会（第1回） レポート

○時差の関係により、2部に分けて開催した。（参加者総数：26名＋事務局）

- ・4/22（木）09:00～10:00（日本時間、"朝の部"）参加者：10名＋事務局
- ・4/28（水）21:00～22:00（日本時間、"夜の部"）参加者：16名＋事務局

○この分科会の目的

- ・日本国内外のくずし字教育について、情報共有や意見交換を行う。
- ・くずし字習得の機会を共有し、増やしていく。

○レベル分けの問題

- ・既存の翻刻プロジェクトには、中・上級者が集まることが多い。初心者に限定され、添削も受けられるプロジェクトや勉強会があるとありがたい。
- ・確かに、くずし字講習会を開いても、多様なレベルの参加者全員に満足頂くのは難しい。

○古典文法の習得

- ・文語（古文）の文法も習得しないと、くずし字を読めるようにならないのではないかな。
- ・翻刻されたテキストを使いながら、日本語の古典文法（例：動詞の活用）を学べるようなシステムがあるとよいのではないかな。特に、日本国外の学習者のために役立つであろう。
- ・ヨーロッパ言語の文献学との比較にも関心がある。ドイツでは古典テキストがオンラインで公開され、検索できるようになっている。
- ・西洋古典のテキストを公開しているアメリカのウェブサイトでは、古典文法も学べるようになっている。日本古典でも、このようなウェブサイトを作れないだろうか。

Perseus Digital Library (<http://www.perseus.tufts.edu/hopper/>)

○日本国外の大学院・大学院生のニーズ

- ・アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）では、日本国外の大学院に在籍している大学院生が日本語を学んでおり、自身の研究のために必要なくずし字文献をIUC教員と一緒に読むことがある。読めない箇所が残ることもあるので、研究者に直接相談できるとありがたい。なおIUCでは、課外選択授業で、書道の講師がくずし字入門を教えている。
- ・チューリッヒ大学では、30人ほどの大学院生全員が関心を持てるようなくずし字教材を必要としている。また、Zoomを使った講習会・ワークショップがあるとありがたい。
- ・ローマ・サピエンツァ大学では、くずし字初心者向けの指導は学内で行うのでよいと考えているが、中級以上の学生のためには、Zoom等で日本の研究者と一緒にゼミを開いてはどうか、と考えている。

・韓国ではくずし字を読む機会が比較的少ないため、そのような機会があれば参加したい。
また、くずし字の教授法についても情報がほしい。

○日本国外の図書館・司書のニーズ

・プリンストン大学東アジア図書館では、以前、国文学研究資料館のくずし字講習会（北米の日本司書対象）が開かれたことがある。今後も開催してほしい。
・フランス国立ギメ東洋美術館図書館では、現在、約 5,000 点の和古書のおよそ半分が未登録となっている。司書が和古書を登録する際には、書名・序文などのくずし字を読むことが必要なので、定期的にくずし字を練習できるような場があるとありがたい。

○教材

・初心者に適している教材として、以下 3 種類が例として挙げられる。

①絵が豊富な資料。絵から文字を推測することも可能なときがある。例：『十番虫合絵巻』（ホノルル美術館蔵）、絵双六（東京学芸大学附属図書館蔵）。

②現代・現在に通ずる題材。例：麻疹絵。

③明治時代の活字本（例：『演劇新報』）や江戸後期の読みやすい板本（例：都々逸）。機械判読に適しており、AI（例：立命館大学アート・リサーチセンター「くずし字解読支援・指導システム」）の補助を受けながら、くずし字の基礎を練習できる。

・往来物は、漢字が多く、初心者にとっては難しいこともある。

・歴史学（日本近世史）では、初心者であっても、漢字の多い公文書（正式な御家流で書かれたもの）から学び始めることが多い。

・国文学研究資料館のくずし字講習会では、古文書と文学系の古典籍の両方を教材にしており、歴史研究者と文学研究者が指導に当たっている。直近では Zoom で EAJRS と共催。
<https://www.eajrs.net/kuzushiji-workshop-2021-accepting-applications>

・カナダのブリティッシュ・コロンビア大学と早稲田大学を Zoom で繋いで開かれたくずし字勉強会では、毎週、異なる種類の資料（古文書、板本、写本）を教材にしていた。

・初心者は、一つのテキストを翻刻するよりも、色々な資料で練習するのがよいのでは。

・中級者向けの教材についても情報があるとありがたい（コロナ禍でのリモート授業実施による新たな創意工夫があるのではないか）。

○研究会・勉強会

・くずし字を習得するためには、複数の人数で、継続的に集まることが効果的である。

・日本女子大学の学部生とハーバード大学の大学院生が、Zoom で勉強会（隔週）を開き、大田南畝の画賛を翻刻している。タンデム学習（言語交換）の方式で、日本側は翻刻の助言を行い、アメリカ側は英語を教えている。

・日本国内外の図書館に勤務する司書が、所蔵資料を対象とした研究会・読書会を開くこと

もある。図書館での企画展示がきっかけとなることもある。

・Facebookに「古文書が読みたい！」というグループがある。読んでみたい様々な資料を持ち寄ることができる。<https://www.facebook.com/groups/171420130826550>

○くずし字解読支援システム

・立命館大学アート・リサーチセンターでは、「くずし字解読支援・指導システム」を運用している。AIの支援と指導者の添削を受けながら、くずし字解読の基礎を身に付けることができ、自学自習にも適している。AIの支援があると、文脈が分からなくても読めることがある。オンライン講座を2021年5月に開催。

<https://www.arc.ritsumei.ac.jp/j/news/pc/007997.html>

○翻刻テキストの作成と公開

・カリフォルニア大学バークレー校C. V. スター東アジア図書館の所蔵資料（『絵本武将勲功記』など）が、「清泉女子大学担当翻刻プロジェクト」を通して翻刻され、立命館大学アート・リサーチセンターのサーバー上で公開されている。

<https://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/vm/UCB/2020/11/c2.html>（翻刻完了作品リスト）

<https://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/vm/UCB/C/C1/>（翻刻テキスト⇒「C1 翻刻完了作品」）

・写本の翻刻形式（例：書き入れや訂正部分の翻刻方法）について検討できる研究会があってもよいのではないかな。

・「みんなで翻刻」との情報共有も必要かもしれない。

・翻刻テキストをくずし字学習の成果として求めるのは、中級者以上を対象とするのがよいのではないかな。

○今後の進め方

・次回の分科会は、立命館大学アート・リサーチセンター「くずし字解読支援・指導システム」を使って、どのようにくずし字を教え、学ぶことが可能かをデモンストレーションする会にしてはどうか。

・更に、分科会とは別に、「初級」と「中級以上」にレベル分けをした、継続的かつ定期的なくずし字の勉強会（2週間に1回程度）を開いてはどうか。

- 誰でも、いつからでも入れて、いつでも抜けられるような会にする。

- 「初級」の会では、各回で色々な種類の資料を取り上げ、「中級以上」の会では、一つのテキストを継続して翻刻し、成果になるようにしてはどうか。

- 立命館大学アート・リサーチセンターの「くずし字解読支援・指導システム」を使う。

・世界各地のシステムや情報について、継続して議論・情報共有したい。

以上

（文責：日本古典籍研究国際コンソーシアム事務局 2021.05.14.）